

Paper

Memories of summer

Fan



折り紙で「やっこさん」を折り、七夕の天の川をイメージした。なんとも斬新で個性的なうちわが出来上がった。



小学校の頃に山好きなお父さんと毎年山に登っていた思い出を描いた。綺麗な植物を折り紙で表現した。



大好きなアイスやかき氷を描いた。夏の風物詩の一つ。カラフルで可愛いという声も多かった。

🍡 今回のワークショップは、少し珍しい。キーワードは、「手」。周囲の人と握手していき、手が温かい人と冷たい人がペアになるように、グループを作った。手と手が触れ合うことで「久しぶり」と、会話が始まり、笑顔が広がっていく。人と触れることで、人の繋がりがやぬくもりを感じられた。

そして、そのグループで一人一枚、「世界に一つだけのうちわ」を作った。折り紙を切り貼りして、それぞれの「夏の思い出」をうちわに描いた。Aさんの北川さんは、小学校のころ作った「行灯」を描いたり、Pちゃんのほのかちゃんは、幼少期に小さくて、流しそうめんを取れずに、悔しい思いをしたことを描いたりした。

AさんPちゃんが共鳴し、感覚が呼び覚まされたように昔の「夏の思い出」について語り合った。皆と共有することで、過去のときめきがさらに大きくなっていくのを感じられただろう。

盆踊り

今回は「炭坑節」を踊った。「炭坑節」は福岡県に伝わる民謡で、もともとは炭鉱労働者によって唄われた「伊田場打選炭唄」が原曲である。



「掘って、掘って、また掘って。担いで、担いで…」と、村田さんと岡田さんが主導となって、AさんPちゃんに丁寧に教えてくれた。輪になって一通り、練習したところで、NHKの2020年の応援ソングになっている、「パプリカ」という曲に合わせて踊った。さらに、木村さんによる三味線、あんりちゃんによる太鼓の演奏もあり、全員の熱気が最高潮に高まった。

今回は「ほたるこい」「七夕さま」「花火」「海」「いつまでも夢を」の5曲を歌った。自然と手拍子が広がり、うちわを振ったり、身体を揺らしたり…そして最後は、AさんPちゃん皆が知っている、松田聖子さんの「青い珊瑚礁」で締めくくった。皆が「聖子ちゃん」になったように大熱唱し、ライブのような盛り上がりを見せた。

懐メロ



テクテク

坂田さんと吉村さんがSONYのKOOVを披露してくれた。鳥をイメージして作られ、首を左右に動かしながら前に進んでいく。これらは全てタブレットで操作できるようになっている。このKOOVが動き出したとき、「わあ〜!!」と歓声が上がった。Aさん達も夢中になっているテクテク講座。今後も目が離せないだろう。



次回のワンダフル大学院は10月14日です。